兵庫県教育委員会丹波教育事務所　教育支援チーム

TNBだより

令和４年 12 月

新採用と２年目の先生方を中心に、授業見学と面談をさせていただいています。若い先生方の一生懸命で前向きな姿勢に、こちらがパワーをもらうことが数多くありました。来年も皆さんのさらなる成長と活躍に期待しております。

面談では授業づくりのアドバイスを行ったのですが、その際に「授業づくりのためのセブンルール」、「授業力を高める～自分の型をつくる～」という二つの資料をお配りしました。今回の TNB では、その資料を紹介したいと思います。基本的なポイントばかりですが、中堅、ベテランの先生方にもご一読いただき、自分の授業スタイルを見つめ直し、よりよい授業を目指すきっかけにしていただけると幸いです。

今年も残り少なくなってきました。年末・年始には今年をゆっくりふり返るとともに、３学期に向けての準備をする時期にしたいものです。

資料１　　「授業づくりのためのセブンルール」

教師にとって最大の仕事は授業をすること。教師は授業で勝負する。
日々の授業の中で大切にしてほしいことを「セブンルール」としてまとめました。
まずはこの７つの基本を意識して、授業づくりを進めてください。

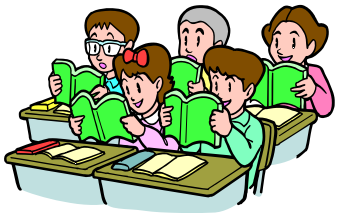
①　１時間の授業のポイントは二つまで。
　あれもこれも詰め込まない。集中力は３０分が限界。ゆとりをもった計画を。

②　授業計画は板書計画から。
　授業後にぱっと見てその時間の学習内容が分かるよう、板書計画を練る。

③　授業のゴール（「ねらい」「めあて」）を明確に示す。
　ふり返りの際には、「ねらい」「めあて」がどの程度達成できたか確認する。

④　子どもの活動の時間を確保する。
　教師はしゃべりすぎない。主役は子どもたちです。慌てずに待つことも大切。

⑤　子どもの発言や意見を評価する。



　「すごい。よくそこに気づいたね。」
　「そんな考え方ができるとは、さすが！」
　「すばらしい着眼点だ。もう少し詳しく聞きたいな。」
　「おしい、いいところまでいってる。ここをもう少し考えてみよう。」　などなど・・・
　ほめることが大事なのではなく、「伸びた所を具体的にほめる」ことが大切です。
　タイムリーな言葉かけが、子どもたちとの信頼関係を作ります。

⑥　その学びが社会や生活にどうつながっているか意識させる。
　「テストに出るよ。」「ここ大事！」だけではなく、学ぶ意欲を高める話題と工夫を。

⑦　表情豊かに授業を。わかりやすく、簡潔に指示を。
　目は口ほどにものを言う。マスク生活が続いているからこそ、笑顔で表情豊かに授

業をしましょう。心身ともに元気で子どもの前に立つこと、それが最大・最高の教材研究です。

資料２　　「授業力を高める～自分の型をつくる～」

授業づくりのための「セブンルール」をほぼ完璧にマスターされ、日々ご活躍のことと拝察いたします。第２段階として、授業力をさらに高めるためのステップに進みましょう。

今回は「自分の型をつくる」がテーマ。自分のパターンを作り上げるということは、自分はもちろん子どもたちの安心感につながります。「ワンパターンでマンネリになるのでは…」などの心配はご無用。自分の型があるからこそ、「型破り」な授業ができるのです。型がなければ、行き当たりばったりの授業展開、つまり「形無し」になってしまいます。

あなたの「型」を作り上げるために、以下の５点を意識して授業づくりを進めてみてください。

①　導入に継続的な活動を取り入れてみる。

国語なら音読、漢字練習（小テスト）、辞書引きトレーニングなど、算数（数学）なら 100 ます計算、数学パズルなど。最初の５分をパターン化することにより、子どもは安心して自主的に準備をし、落ち着いた授業スタートにつながります。

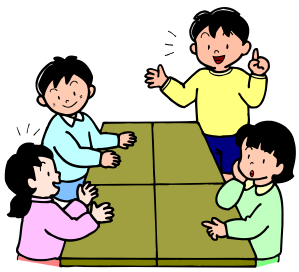
②　「ねらい」「めあて」を共有する工夫を。

「めあて」「ねらい」を指名して数人に読ませる。グループで読む。全員で読む。その後ノートに記入するなど、さまざまな活動を通して本時のゴールを全員で共有しましょう。

③　メリハリのある活動を意識する。

「教師の説明を聞く時間」「個人で考える時間」「考えたことをノートに書く時間」「グループで意見交流する時間」「発表する時間」「作業する時間」など、やるべき活動を明確にし、教師は的確に簡潔に指示しましょう。活動を切り替える時は視覚支援が効果的です。

④　話し合い活動は型にはめてトレーニングを重ねる。



話し合い活動はトレーニングが大切です。話し合う目的や内容を明確にし、グループの中での役割分担（司会・記録・タイムキーパー・発表者など）をはっきりさせ、トレーニングを重ねることによって、話し合い活動はどんどん上達し、考えも深まっていきます。話し合いの前には個人思考の時間を確保することが大切です。

⑤　「まとめ」「ふり返り」の時間を大切にする。

めあてを共有したのに、時間がなくてまとめとふり返りができなかった…。そうならないために、ゆとりある授業計画が大切です。教師によるまとめもよいですが、子どもの活動を取り入れたいですね。授業のしめくくりにふり返りメモを発表し合うなどの活動を取り入れ、本時の成果を全員で共有することによって、学びをより確かなものにしていきましょう。